

新潟大学季刊広報誌

新潟大学の魅力と現在を発信

特別編 授業紹介-最終講義-
シリーズ・対談

学生の課外活動&サークル紹介

Enjoy! 学生ライフ

新潟大学 同窓会情報
Campus Information



NIIGATA UNIVERSITY
MAGAZINE

— R I K K A —

2013.SPRING [No.4]

特集 リニューアルオープン

新・中央図書館案内

新しくなった中央図書館を学生が体験!



 新潟大学

リニューアルオープン

特集

新・中央図書館案内

教育・学習に必要な学術資料を備え、アメニティを考慮した
長時間滞在型自学自習空間として生まれ変わった中央図書館。
地域と大学の交流の場としても期待されるその機能を紹介します。



中央図書館
リニューアルの
概要

ラーニング・
コモンズ機能の拡充

アーカイブ機能の
充実

インフォメーションラウンジ機能の新設

世代を越えた交流と学びの場

新しく生まれ変わった図書館は、学術資料や閲覧環境の充実はもちろん、メディア機能やプレゼンテーションスペースを備えた「ラーニング・コモンズ」など、時代に応じた様々な機能を付加しています。また今回のリニューアルにおける注目のキーワードは「地域連携」で、その中心となるのが1階の「インフォメーションラウンジ」です。天井から太陽の光が差し込んでくる開放的な空間はゆったりと過ごせるスペースで、学生や教職員はもちろん、同窓生や地域の方たちにも足を運んでいただける世代を越えた交流の場になっています。現代は学習の仕方も変化し、コミュニケーションを図りながら学ぶための場所が必要になってきました。訪れる方「ひとりひとりの居場所」がある新しい図書館を大勢の方に活用いただければと思います。

全国に誇れる
図書館です

附属図書館長
山口芳雄教授

平成24年4月より附属
図書館長に就任。工学
部教授。工学博士。



CONTENTS



特集 リニューアルオープン

03 新・中央図書館案内

新しくなった
中央図書館を学生が体験!

特別編

08 ● 授業紹介 -最終講義-

09 ● シリーズ・対談

学生の課外活動&サークル紹介

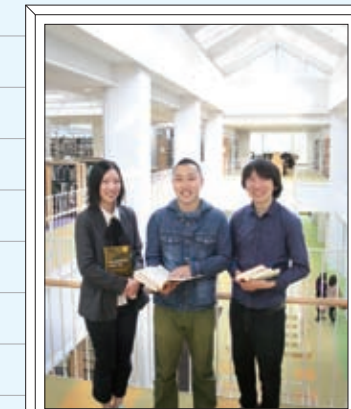
10 ● Enjoy! 学生ライフ

11 ● 新潟大学
同窓会情報

12 ● Campus Information

Cover Photo

リニューアルを果たした中央図書館の中央部分、3層を貫く吹き抜けの階段にて、学生が作る広報誌「新大広報」編集スタッフを撮影。左から小林由依さん(農学部1年)、吉川武宏さん(経済学部1年)、後藤俊太郎さん(工学部2年)。



『六花』とは…

本誌のタイトルでもある『六花』とは、本学の校章のモチーフである“雪の結晶”を表す言葉。本学の校章は、シンボルマークであった学生章をモチーフに本学名誉教授 小磯 稔氏がデザイン化したものです。

学生章



昭和24年に本学のシンボルマークとして制定された学生章
工学部
吉川長平さん 作

校章



平成11年に本学創立50周年を記念して、幾何学的にデザイン化した学生章を校章として制定
教育人間科学部
小磯 稔 名誉教授 作

六花

題字
野中浩俊(のなか ひろとし)氏
新潟大学名誉教授(教育人間科学部)。専門は、書道、富岡鉄斎研究。現在は、岐阜女子大学 教授

※本号に掲載されている学生の学年は、平成25年3月現在のものです。

生まれ変わった中央図書館を知るための3つのポイント

Point.1

ラーニング・コモンズ機能

新潟大学中央図書館では2010年より導入されていた「ラーニング・コモンズ」。今回の増改修に伴い、どのようにその機能を進化させたのか。

私たちが
お答えします！



雑誌情報係 金子亜希沙さん 情報基盤係 樋浦真弓さん 情報調査係 川口洋平さん

「ラーニング・コモンズ機能」とは？

自主自立的な学習活動を支援するための機能を「コモンズ」とは共有のスペースという意味。つまりラーニング・コモンズは、「学生がともに学ぶ共有のスペース」となる。図書館資料に加え、電子ジャーナルやインターネットなどのネットワーク資源を活用し、学生同士コミュニケーションをとりながら学習することができ、新しいコンセプトの学習空間だ。増改修に伴いこの機能を強化することで、自主自立的な学習活動を支援するための「学びの場」「創造の場」「発想の場」としての役割を果たす。



↑新築されたB棟の2・3階が「ラーニング・コモンズ」に。開放的な空間で、ひとりでもグループでも自由に学習できる

学生たちが刺激し合い、学び合える空間です



新しく導入された

「ラーニング・コモンズ機能」のポイント

コミュニケーションをとりながらいいアイデアを出してもらいたいです



より共同的、自主的な学習ができる環境に



メディアラボ

↑画像・映像編集などできるパソコン4台と大型プリンター、スキャナーを完備

プレゼンエリア
↑プロジェクターなどを備えたプレゼン練習ができるスペース。オープンな空間のため、発表の度も養える

ヘルプデスク

↑「ラーニングアドバイザー」として学生を配置。資料の検索補助やレポート作成などの相談に応じている



グループ学習室

↑グループ学習のための区切られたスペース。5室あるが、繋げて利用することも可能



ICT講義室

↑60席すべてにパソコンを設置。春・秋には文献情報の探し方ガイダンスもここで開催される



いろんな学習形態を見て、そこから刺激を受けてほしいです



FL-SALC&スピーキングブース

↑FL-SALCは外国語の学習支援スペース。スピーキングブースでは実際に声を出してのスピーキング練習が可能

Point.2

アーカイブ機能

「アーカイブ」は文書庫の意味。つまりは図書館本来の機能である。現代の図書館ではそこに「電子化」という新たな機能も求められている。

私たちが
お答えします！



図書情報係 東亜希子さん 資料公開係 樋口葉子さん 情報サービス係 渡邊健一郎さん

「アーカイブ機能」とは？

学術図書、電子化資料を整理・保管する



↑増改修にあたり、書架間隔を広く設置。資料が探しやすい環境を作ることも重要な要素だ。また、学術リポジトリ（デジタルアーカイブ）の充実も不可欠だ

利用しやすい環境作りもアーカイブ機能のひとつです



新しく導入された

「アーカイブ機能」のポイント

目玉は「自動化書庫」と「貴重資料室」

アーカイブ機能の面で、新装図書館の目玉となるのが「自動化書庫」と「貴重資料室」。新築された自動化書庫には約50万冊の蔵書収容可能。蔵書検出コーナーも設けられる。

自動化書庫

↑タッチパネルに書籍情報を入力すると、書庫からコンテナで運ばれて来る



↑保管棚（ラック）と3基の搬送機（クレーン）、1万個以上のコンテナなどで構成

自動販売機みたいに欲しい本が出てくるんですよ



膨大な図書を効率的に保管するため、既存の建物に隣接する形で自動化書庫棟を新築。幅12メートル、奥行き23メートル、高さ12メートルの空間に、約50万冊を収容することが可能。自動化書庫内に保管された図書は、蔵書検索システムと連動し、出納ステーションに搬送され、最速40秒で受け取ることができる。

Point.3

インフォメーションラウンジ機能

本来は学生と教員のための施設である大学図書館だが、生まれ変わった中央図書館は、地域に開かれた図書館となるべくこの機能を強化する。

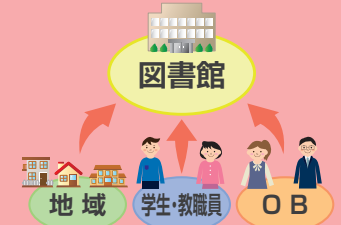
私たちが
お答えします！



総務係 小田島仁さん 雑誌情報係 永井登志江さん 情報サービス係 高橋千夏さん

「インフォメーションラウンジ機能」とは？

「地域に開かれた図書館」となるために



↑この機能を強化することで、大学図書館は地域の人々や卒業生が気軽に立ち寄り、交流できる場となる

学生と地域、OBが触れ合える場になればと思います



新しく導入された

「インフォメーションラウンジ機能」のポイント

気軽に立ち寄り、情報を得、交流できる場へ

「インフォメーションラウンジ」では、通常中央図書館に入る際に必要なカードが不要。目的を持つ人のみならず、誰もがフラリと気軽に立ち寄ることのできるパブリックスペースだ。ここには「ライブラリーホール」や「ライブラリーギャラリー」などが設けられ、様々な人が交流する場となる。

ライブラリーホール



↑学内外の様々な催しの会場が誕生。地域交流の場としても期待される

地域の方々と対象にした講演会なども開催する予定です



「旭町キャンパスの有王記念館のように、五十嵐キャンパスにも講演ができる場」という声を実現。収容人数は約260名。国際会議や学内の学会、研究会などのほか、一般向けの講演会や公開講座なども開催し、地域の方々に生涯学習の場を提供する。新潟大学の魅力をアピールする場として活用が期待される。

ライブラリーギャラリー

↑同窓生から寄贈されたソファ。校章である「六花」をモチーフに作られた



↑学部の境界を越えて、新潟大学の最新の活動や研究を紹介している

地域連携活動や研究の成果などをパネル等で紹介します



新潟大学の活動を地域に紹介するスペース。これまでなかなか知る機会がなかった他学部の情報が得られるという意味では、学生にとっても有用な場となりそう。また少人数でのイベントなど、学生や地域の方々の活動のためにも提供される。エントランスには雪の結晶をモチーフにした特注のイスが置かれる。こちらにも注目だ。

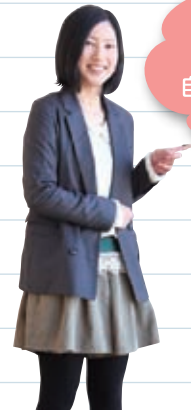
探している本が
すぐに
見つかります



可動式扉のグループ学習室

使用する人数や目的に応じ、可動式の扉で空間をカスタマイズできる。「研究室の仲間と来て、お互いの知識や絆を深め合おうと思います」(後藤)

気軽に
足を運べる
自由な空間です



クレーンがある 自動化書庫

約50万冊の図書を自動的に出入れできる機能を備えた施設。「本を探す手間が省けるすごい設備!」(吉川)



貴重資料室に潜入!

大学が保有する貴重資料を保管する部屋。通常は学生の立ち入りNGですが、特別に見学させていただきました

会話練習が
できる
スピーキング
ブースもあります

研究個室は
オンラインで
予約可能



外国語学習教材が 充実したFL-SALC

FL-SALCとは「外国語自律学習支援室」を意味。外国語教材を豊富に揃え、学生の自律学習をサポートします



学内外の交流が生まれる インフォメーションラウンジ

学内外の方々が多目的に使えるパブリックスペース。約260人収容のライブラリーホールも備えています



新しい
図書館は
とっても快適♪



リラックスして
和やかに
勉強できる空間

他の学生に先駆けて新しい図書館に触れた3人。どんなところが印象的でした? 「ライブラリーホールは映画館みたいなデザインでびっくり。早くいろんな講演を聞いてみたいです」(後藤)。「床に敷かれたカーペットの色がフロアによって分けられているのも印象的。館内が明るくなりましたね」(吉川)。ふたつの棟を繋ぐ空中回廊や屋上緑化、吹き抜けのエンタランスや中央階段など開放的な空間にもびっくり。「本を探すのももちろん、中を歩くだけでもリフレッシュできる」(吉川)。「図書館は静かな所」というイメージだけでなく、リラックスして和やかに勉強できる空間になったのが何より嬉しいです」(小林)。3人も大満足で見学終了。みなさんもぜひ足を運んで見てください。

新しくなった中央図書館を学生が体験!

リニューアルを果たした中央図書館。そのスゴさをいち早く体感したい! 学生が中心になって作られる学内広報誌「新大広報」の編集スタッフが潜入してきました!

中央が吹き抜けでオシャレ!



グループで
使える空間が
広くなりました



書庫の間隔が広がり ゆったりと本が探せます

2・3階の学習用図書の書架は、改修前より間隔が広くなり、ゆったりと図書を見られるように。「本が探しやすくなりました」(後藤)

内装も
とっても
オシャレです!

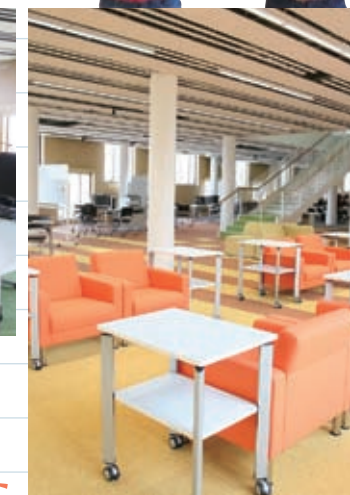


耐震構造柱を書架に利用



ラーニング・ コモンズが 広くなりました

共同的・自主的な学習のために、快適な環境や機能、メディア設備が充実。「以前より広がって、大勢の学生が活用できますね」(小林)



退職する教授の最後の授業に出席したことはありませんか？
教育学部長の「最終講義」はユーモア溢れる教育論でした。

第4回

教育学部



五十嵐 尤二 教授

教育学部長・自然情報講座教授。
理学博士。専門分野は物理で素粒子論を研究。

最終講義

「はれときどきブツリ」

泥くさいことを繰り返す中で
得たものの集積こそ財産になる

最終講義という研究生活の集大成が論じられ、最後には大きな花束贈呈というのが一般的。ところが、五十嵐教授の最終講義は、自身の幼少時代の思い出から現在に至るまでのエピソードを交えた非常にくだいた内容に、花束ではなく、好物のワインを贈られ見せた満面の笑みも印象的でした。後日、最後の教壇を下りた教授を訪ね、まずは幼少時代の思い出を題材に選んだ理由から話を聞きました。

「子供の頃に、野原を駆け巡った記憶は僕の中で今も新鮮なものとして残っています。ワクワクしたり、これは面白いと盛り上がる感覚は、小さい頃の体験にベースがあつて、それがいくつになっても学ぶときの感動力になることを伝えようと思いました。」

学生には難解な講義をすることでも有名な教授。その真意はどこにあったのでしょうか？

「講義は分かりやすい方がいいとよく言われるけど、それが印象に残るかどうかと案外そうでもない。僕は学ぶ主体として対象にどう関わるかと、集団で議論するというプロセスが大切だと思っていて、講義の内容より、そこに刺激が与えられたということ自体が大切だと考えています。僕の授業は難しいと言われるし、自分でもそう思う(苦笑)。それは、これは面白いという感動を切り取って提供しているからなのではないでしょうか。」

そして、「教育者にとつて大切なのは感動を伝えること」とさらに話を続ける教授。

「教科書通りの展開というものは教育の現場にはないし、むしろ失敗の連続ですよ。そういう非常に泥くさいことを繰り返す中で得た、キラリと光るものの集積こそ、ある種の財産になると思いますね。その経験や感動を自分なりに再構成して次の世代に伝えるのが、教育の定義ではないかと僕は思っています。だからこそ教える側に「これは面白いよ」という感覚がないといけない。最終的には、その気持ちが学生に一番影響力を持つと思うんですよ。」



遠藤 霞さん(大学院教育学研究科2年)

「先生は難解な問題に向かうことを心から楽しんでいる。その姿はこの先に面白いことが待っているとワクワクさせてくれるものでした。また、対等に議論することも重視されていたと思います」

STUDENTS VOICE!



佐々木亮平さん(大学院教育学研究科2年)

「気さくな人柄でワインが大好きな先生。『分かりやすさばかりを求めるのではなく、事実と過程をきちんと理解して伝えることのできる教師になりなさい』というメッセージが心に残っています」

STUDENTS VOICE!

恩師と語らう懐かしの時代

シリーズ・対談

恩師 内藤俊彦 名誉教授

教え子 黒崎直史さん 三上 晴由貴さん

[平成6・7年3月 法学部卒業] 対談場所／よし半

学生の視野を
狭めないという
法学部の理念

黒崎 先生はお酒が強かったですよね？

内藤 いやいや、最近では弱くなったよ。当時はこうやって教員と学生が向き合って、よく飲んでいましたね。

黒崎 就職や勉強の相談に先生の研究室に行くのと、とにかく話題が豊富で、長居してしまっただけの記憶があります。僕は暇があれば先生の部屋に行っていました(笑)。

三上 ドアをノックすると



「はい」っていう先生の低音の返事が聞こえてきて(笑)。

内藤 (笑) 肩ひじ張って来られるのが一番困るから、そのくらいが調度いい。学生と教師の距離の近さは私が新大に赴任してきて一番感じたこと。比較的たやすく教員の部屋に入れるという関係は旧帝大にはありません。部屋に行くのは呼び出されたり、将来の相談に行くときくらい。雑談なんてとんでもなかったんです。

三上 僕は都市計画に関する法律に興味があつたんですが、政治史のゼミに入ることになってしまつて……。そこで先生は「今ある制度には、歴史的な背景があるんだよ」と言っていて、関東大震災の復興を手がけた後藤新平(元内務大臣)の伝記を薦めてくれましたよね？

黒崎 あ、僕も読んだよ。三上 大冊だったけど、復興の理念や政治家の指導力など、今の仕事にとても示唆を富む点の多い本でした。

内藤 それは何より嬉しいね。三上 先生の助言もあつて、学生時代に歴史の視点から法律を眺めてみたり、いろんな角度から物事を考える機会を与えていただいたのは、大きな財産ですね。

黒崎 先生が紹介してくれた本や話は思想的にとってもためになりました。思想や歴史を知っていると世界を面白く渡り歩けますよね。僕に国際感覚があるとすれば、それは先生から教えられたものです。

内藤 これは褒め殺しですね(笑)。新潟大学の法学部には創設以来「何でもやりなさい」という雰囲気があつたと思うんです。法律だけでなく政治学だけでもなく、自由に勉強できるような空気作りに力を入れていたし、最初から学生の視野を狭めないというのが理念にあつた。それは今も変わっていないと思いますよ。

三上 いい意味でのびのびとしていたんでしょうね。黒崎 確かに採用されて社会に出る新大の卒業生も擦れていない感じがするよね。とても素朴で好感が持てる人が多いと思うんだけど……。内藤 実力は十分だけど、壁を破って前に出ていく人は多くないかもしれないね。



黒崎 ギラギラした野心が見られない？三上 個人的にはそつちの



方が苦手かも(苦笑)。僕は「距離は近いけどベタタリではない」、そういう先生の押し付けがましくない淡々としているところが好きだから、そつちを受け継いで内藤流で行きますよ(笑)。

黒崎 先生には知識や見識を広げる素地を養っていただいただし、それは地域の方はもちろん、国や外国との交渉の場にも役立つ人間力に繋がっています。先生にはこれから長生きしていただき、これから僕が関わる仕事について評価していただきたいと思っています(笑)。

内藤 黒崎君も三上君も学生時代から非常に積極的だったんですね。だから私にとりとてもよく言ったことの中から自分の役に立つことを拾ってくれている。結局、やろうと思う気持ちがないとダメなんです。ふたりは今まで通りの道を進んでいけばいい。性格は随分違うけど、「積極的」という意味では同じこと。これからもきつと新潟のためにいい仕事をしてくださるはずですよ。

先生には知識や見識を広げる素地を養っていただきました。

学生と教師の距離の近さは新大に私が赴任してきて一番感じたこと。

内藤俊彦 名誉教授

専門は日本政治史。新潟大学法学部長・副学長を歴任。

物事をいろんな角度から考える機会を与えてくださった。

三上 晴由貴さん

全国知事会調査第二部 副参事。災害対策を担当している。

黒崎直史さん

新潟県交通政策局空港課に勤務。新潟空港の整備・振興に当たる。

新潟大学 同窓会情報

●農学部周辺の造園緑化整備

農学部では、学部同窓会発足60周年を記念して、建物周辺の造園緑化工事を行っています。在校生、同窓生が設計・造成にかかわりながら「嵐丘庭」として親しまれてきた中庭と前庭を一体的に整備し、緑の息吹を感じながら休息、散策できるスペースとして生まれ変わります。完成予定は本年5月末となっていますので、新潟大学へお越しの際には是非お立ち寄りください。



完成予想図→



●新大サポーター連携推進室の設置

本学では、同窓生をはじめ地域や企業など大学の応援団（サポーター）との連携をより深めるため、本年4月1日（月）に「新大サポーター連携推進室」を設置しました。これまで別棟にあった全学同窓会事務局と共に大学本部の1階に設置し、同窓生の方々にも気軽に立ち寄っていただける雰囲気になっています。今後、推進室では、全学同窓会と協力しながらサポーターの方々と連携した取組を行ってまいります。



●卒業生と学生をつなぐ

新潟大学キャリアセンター

CANシステム



ご登録方法

登録はとてもカンタン！
個人情報は公開されません。



<http://www.career-center.niigata-u.ac.jp/jobnetwork/>

新潟大学 CANシステム 検索

新規登録はこちら

STEP 1 協力依頼・利用規約同意画面
新規登録から利用規約同意画面へ。

STEP 2 入力画面
フォームに必要事項を入力。
公開可能な項目は、任意で選択可能。

STEP 3 確認画面
入力情報を確認後、「送信する」ボタンをクリック。

STEP 4 登録完了
ご指定のメールアドレスに確認メールが届き、登録完了。

ご登録後の流れ

学生からの質問・相談メールに、システムを通じて返答します。

活用具体例

- 会社・仕事・職種についての具体的な質問
- キャリア形成に関する質問やアドバイス

学 生



CANシステム

OB・OGの皆様

- 1 CANシステム上に公開されているOB・OGの情報をもとに、システムを通じてOB・OGへメッセージ送信。
- 2 CANシステムを通じて、学生からメッセージ送信。
- 3 返信メッセージをCANシステムへ返信。
- 4 CANシステムを通じて、OB・OGからの返信を受信。

社会の先輩としてのアドバイスを 学生にお聞かせ下さい!!

「CANシステム」は、在学生が卒業生に就職活動の相談ができ、卒業生の方からも在学生に生の声を伝えられるシステムです。先輩からのアドバイスは、厳しい雇用環境の中で不安な気持ちで就職活動に取り組む学生たちには心強い支援になります。卒業生の皆様には本システムの趣旨をご理解いただき、是非ご登録いただきますよう、よろしくお願いいたします。

ご不明な点は
キャリアセンターまで

新潟大学キャリアセンター TEL:025-262-6087

E-mail:niigata.cc-obog@adm.niigata-u.ac.jp URL:<http://www.career-center.niigata-u.ac.jp/>

Enjoy! 学生ライフ

学生にとっては、部活に代表される課外活動も大切な青春の1ページですね! このコーナーでは、そんな部活動を中心とした新大生の活躍をお届けします!!

CIRCLE
PICK UP!

目標は北信越リーグ戦優勝! 男子バスケットボール部

コート内では真剣勝負。声が飛び交う



ベンチとコート
一体になって
試合を作っ
ていきます



左→右
前部長 江部宏生さん(教育学部4年)
現部長 吹井明良さん(教育学部3年)
遠藤佑香さん(法学部2年)

チームワークを大切に 学生らしく活動中!

「バスケット部は学生主体で運営する組織。大会や練習以外にもスポーツフェスタで募金活動をしたり、学生らしさや日常を大切にしながら活動しています」(江部) 「笑顔を忘れず真剣にがんばる部員を支えるのがマネージャーの仕事」(遠藤) 「目標は春季・秋季の北信越リーグ戦優勝。よい結果が残せるよう一丸になってがんばります」(吹井)

↑週4〜5日、大学の体育館でたっぷり汗を流す。22名の部員が所属している

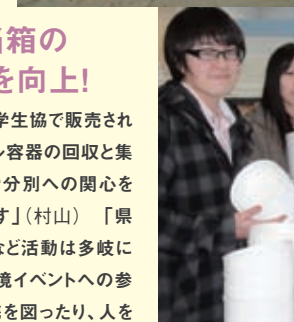
リサイクル容器の
回収と啓蒙活動に
力を入れています



左→右
現代表 村山 輝さん(工学部2年)
前代表 鯉沼 健太郎さん(理学部3年)
豊崎 操さん(理学部1年)

リサイクル弁当箱の 普及と知名度を向上!

「主な活動は、新潟大学生協で販売される弁当を入れたリサイクル容器の回収と集計。それらを通してエコや分別への関心を高めてもらうのが目的です」(村山) 「県外での合宿や海岸清掃など活動は多岐に渡ります」(豊崎) 「環境イベントへの参加を通して学外との連携を図ったり、人を動かすことも面白さのひとつです」(鯉沼)



↑ゴミの減量化につながるリサイクル弁当箱。回収率80%を目指す

学内外でエコ活動を実施 にいがた環境プロジェクトROLE

CAMPUS
TOPICS!

「新大シッター」第5期生へ 認定証の授与が行われました



↑今回認定証が授与された学生は39人。今後は保育支援という形で、研究者を支える事になります

「新大シッターによる保育支援」等により 女性研究者の子育てと研究の両立支援

本学では女性研究者の子育てと研究の両立支援を推進しており、1月21日(月)に「新大シッター」の第5期生へ、学長から認定証の授与が行われました。「新大シッター」とは、子育て中の研究者が土・日曜や休日も研究に専念できるように、在学生が大学の指定した講義・演習や保育研修を終了し、認可と称号を受け、大学構内で臨時・一時的な保育支援を行うものです。

新大キャンパスミーティングが 開催されました



↑最後の全体討論では、学生、教職員から様々な意見が飛び交い、活発な討論が行われました

新潟大学の質の向上を目指し 様々な意見が飛び交う討論の場に

学生の皆さんの声を教育改善に反映させる場として1月22日(火)に「新大キャンパスミーティング」が開催されました。まず、学長から「元氣な新大はキミたちが創る!!」と題してプレゼンテーションがあり、次に、5人の学生たちから「よりよい大学生活のために」として、授業履修や学習スペースなど、学生生活を送る上で課題についてプレゼンテーションが行われました。

Campus Information

地域に密着しながらさまざまな活動続ける新潟大学。
皆さんにお伝えしたいニュースはたくさんあります!

浴衣姿でサイエンス談義!

第4回サイエンス宿

開催日時 2013年3月16日(土) 会場 岩室温泉「ほてる大橋 館の湯」

内容 温泉宿で暮らしの中に潜む身近なサイエンスを語り合う「サイエンス宿」が開催されました。大人から子供まで浴衣姿でイベントに参加するなど、普段とは違った環境で、深海生物、東京スカイツリー、災害対策に関するテーマを中心に本学教員等とサイエンス談義を交わしました。



学部生約2,300人、 大学院生約700人が晴れて卒業

平成24年度新潟大学卒業式

開催日時 2013年3月25日(月) 会場 朱鷺メッセ

内容 平成24年度春季卒業式を挙行了しました。当日は卒業生のほか、保護者など総勢約5,000人が列席しました。卒業生代表の農学部の吉田賢樹さんからは、「荒れ狂う日本海を自らの体一つで乗り越えるような情熱を持ち、人生の荒波を力強く切り開いていきたい」との答辞が述べられました。



新潟大学の地域に根ざした取り組み

平成24年度第2回新潟大学社会連携フォーラム 「足元からの社会連携」

開催日時 2013年2月16日(土)

会場 新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」

内容 大学の地域社会における産業振興への貢献をテーマとした「社会連携フォーラム」を開催し、地域の企業関係者ら約180人が参加しました。『感性とものづくり「働く幸せ」』と題して、ただ単にものを作るだけでなく、それに関わる経営と人づくりという広い視点からテーマに迫っていくという趣旨のもと開催されました。



躍動する新大生! 今後の活躍を期待

学生会表彰式、学長による学生表彰式

開催日時 2013年3月19日(火)

会場 新潟大学松風会館

内容 学生会活動及び課外活動において、特に顕著な功労のあった学生等を讃える学生会表彰を実施しました。また、同日には、在学期間を通じて極めて優秀な学業成績を修めた者や学術研究活動並びに課外活動において顕著な業績・成績を挙げた個人又は団体を讃える学長による学生表彰を実施しました。



新潟大学基金のお知らせ ぜひご協力ください

「新潟大学基金」は、皆様からのご寄附を基に、学生の修学支援や、国際交流活動等、魅力ある大学作りのために活用しています。ご寄附をいただいた場合、税法上の優遇措置が受けられる他、特典もご用意しております。詳しくは基金ホームページをご覧ください。

●基金ホームページ <http://www.niigata-u.ac.jp/kikin/index.html>

新潟大学基金事務局 電話:025-262-5651(受付時間 平日9:00~17:00)
FAX:025-262-6679 E-mail:kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp



新潟大学
季刊広報誌



RIKKA
2013.Spring

No.4

発行/平成25年4月

編集/新潟大学広報センター
(新潟市西区五十嵐2の町8050番地)

電話/025-262-7500 FAX/025-262-6539

Home Page <http://www.niigata-u.ac.jp/>

E-mail rikka@adm.niigata-u.ac.jp

編集後記

いよいよ待ちに待った春がやってきました。キャンパスには、新入生をはじめ学生たちの元気な声が響いて、新たな年度の始まりを実感している今日この頃です。本号から、同窓会に関する情報や同窓生の皆様にお伝えしたい情報を掲載するページが登場しました。これからも大学のフレッシュな情報をお伝えしますので、どうぞご期待ください。(Y)